

# 2023年度 年次報告書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA  
Annual Report 2023-2024



©N.Ikegami

2023年5月12日『エレクトラ』指揮：ジョナサン・ノット  
エレクトラ：クリスティーン・ガーキー クリソテミス：シネイド・キャンベル＝ウォレス

## ご挨拶

平素は東京交響樂團をご支援いただき、心よりお礼を申し上げます。  
2023年度の活動をご報告させていただきます。お陰様で東京交響樂團は、2023年度に創立77年を迎え、さまざまな活動が高い評価をいただいております。

## 2023年度活動概要

### 【定期演奏会】

4月（第709回）ポーランドの指揮者クシシュトフ・ウルバンスキが登場、プロコフィエフの「ロメオとジュリエット」を自身によるセレクションで、また自国ポーランドの作曲家シマノフスキのスターバト・マーテルなどの選曲を暗譜で指揮し、敬虔な響きを届けた。



5月（第710回）はジョナサン・ノットの指揮。リゲティのムジカ・リチェルカータ第2番（ピアノ・ソロ：小笠寺美樹）から音階を続けて、マーラーの交響曲第6番「悲劇的」を開始。各楽器をよく聴かせ、第4楽章にハンマーを5回も鳴らすなど、ノットならではの趣向がちりばめられた。

6月（第711回）は、ローマ歌劇場の音楽監督ミケーレ・マリオッティが日本のオーケストラに初登場し、シューベルトの交響曲第8番「グレイト」をニュアンス豊かに表現し、ロマン主義の息吹を感じさせた。



7月（第712回）はノット指揮、神尾真由子のヴァイオリンで、エルガーの協奏曲、ブラームスの交響曲第2番。8月（第713回）は鈴木優人が、演奏機会が少ないメンデルスゾーンの交響曲第5番「宗教改革」、と第2番「讃歌」という2曲を、信頼する歌手陣と東響コーラスと共に壮大なスケールの音楽を作り上げた。



9月（第714回）は、次期音楽監督に就任が決まったロレンツォ・ヴィオッティがベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」とR.シュトラウスの交響

詩「英雄の生涯」という2つの英雄を推進力のある演奏で魅了した。「英雄の生涯」では、コンサートマスター、ニキティンによる美しいソロが際立っていた。



10月（第715回）ドビュッシーの交響的組曲「ペレアスとメリザンド」と、ヤナーチェクの「グラゴル・ミサ」。グラゴル・ミサではその破格のスケールを持つ作品を、ノットと充実のソリスト陣、東響コーラスが歌い上げた。



11月（第716回）ノット指揮の指揮でベートーヴェンの交響曲第6番「田園」と、ピアノにゲルハルト・オピッツを迎えてのベートーヴェンのピアノ協奏曲第2番。

12月（第717回）桂冠指揮者ユベール・スダーンによるシューマンの交響曲第1番「春」（マーラー版）、ブラームス/シェーンベルク編のピアノ四重奏曲第1番。

3月（第718回）、邦人作曲家の紹介に取り組む当団正指揮者の原田慶太楼が、藤倉大のWavering World、シベリウスの交響曲第7番、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番（Pf オルガ・カーン）のプログラム。

### 【その他主催公演】

東京オペラシティシリーズでは、6月に井上道義が武満徹の映画音楽、自身の交響詩とエルガーのチェロ協奏曲（Vc：上野通明）を、9月には若



手期待の指揮者のアンガス・ウェブスターが登場、12月には年末恒例のベートーヴェン「第九」で締めくくった。

川崎定期演奏会は、定期演奏会からピックアップした5公演を主催し、うち4公演をニコニコ動画でライブ配信。多くの視聴者を得た。

### 【特別演奏会】

5月に R. シュトラウス・オペラ第2弾として、歌劇「エレクトラ」（演奏会形式）を開催した。エレクトラ役の世界屈指のソプラノ、クリスティーナ・ガーキーの終始力強い歌唱、大ヴェテラン、ハンナ・シュヴァルツをはじめする歌手陣と演出監修トーマス・アレン、ノット監督と当団のこれまでの成果を示した公演となり、「音楽の友」誌の2023年コンサート・ベスト10の第1位に輝いた。（表紙写真）

8月に原田慶太楼プロデュースによる「軽井沢シリーズ第2回」を大賀ホールで開催した。12月のノット指揮「第九」2公演、秋山和慶指揮ニューイヤーコンサート、3月の、原田慶太楼×亀井聖矢コンチェルト・コンサート（東京、横浜2公演）はいずれも満席となった。

### 【フランチャイズ事業】

「モーツァルト・マチネ」、「映画音楽」、「ミューザの日」、「ジルバスター・コンサート」、「フェスタサマーミューザ KAWASAKI」が、川崎市文化財団の主催で開催された。共催の「名曲全集」は全10公演中4公演を無料配信し、全国のファンに視聴された。

新潟定期演奏会は定期演奏会から3公演と、東京オペラシティシリーズから1公演、新潟独自のプログラムによる公演の計5公演が催された。加えて、12月31日には原田慶太楼の指揮で、ジルバスターコンサートが行われ、新潟では久しぶりのジルバスターに会場も大いに盛り上がった。



### 【青少年育成プログラム】

ズーラシアンブラスとの共演で好評の「0歳からのオーケストラ」は1日2公演完売、「こども定期演奏会」は、ピアノの亀井聖矢、チェロの上野通明などフレッシュなソリストと共演。こどもピアニスト、若手作曲家、こども奏者も参加して盛沢山の内容となった。

### 【アジア・プロジェクト】

日本芸術文化振興会の助成を受け、国際交流を目的としたアジア・プロジェクトを開始した。初年度はタイを拠点にロイヤル・バンコク交響楽団、シラパコーン大学とパートナーシップを結び、日本大使館ナショナルデーレセプションでの演奏、ロイヤル・バンコク交響楽団のメンバーとの弦楽アンサンブルのジョイントコンサート、そして3月22日にタイ文化センターで主催公演として実施したバンコク特別演奏会は、大友直人指揮、服部百音（ヴァイオリン）が満席の聴衆を大いに沸かせた。



### 【依頼公演】

新国立劇場のオペラ「エウゲニー・オネーギン」「ドン・パスクワレ」、バレエ「ホフマン物語」では、各公演が高く評価された。

学校巡回公演では、東京都と茨城県で計7公演を行い、各地に音楽を届けた。

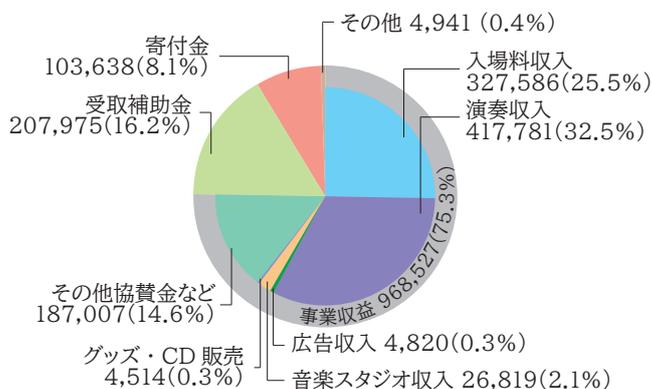
## 演奏会記録（全139公演）

自主公演（54回）		依頼公演（85回）	
定期演奏会（第709回～第718回）	10回	新潟定期演奏会	5回
川崎定期演奏会（第90回～第94回）	5回	オペラ・バレエ公演	11回
東京オペラシティシリーズ（第132回～第137回）	6回	音楽鑑賞教室・青少年のためのプログラム	24回
名曲全集（第186回～第195回）	10回	録画・録音	1回
こども定期演奏会（第85回～第88回）	4回	その他	44回
特別演奏会	19回		

## 財産・運営状況について

正味財産増減計算書の概要			
科目	2023年度	2022年度	2021年度
経常収益計	1,285,081	1,276,153	1,255,780
内・事業収益	968,527	1,019,983	964,863
内・受取補助金	207,975	132,787	139,126
内・寄付金	103,638	113,316	133,139
経常費用計	1,311,643	1,245,701	1,198,988
当期経常増減額	△26,562	30,452	56,792

収入（2023年度）1,285,081（単位：千円）



支出（2023年度）1,311,643（単位：千円）

